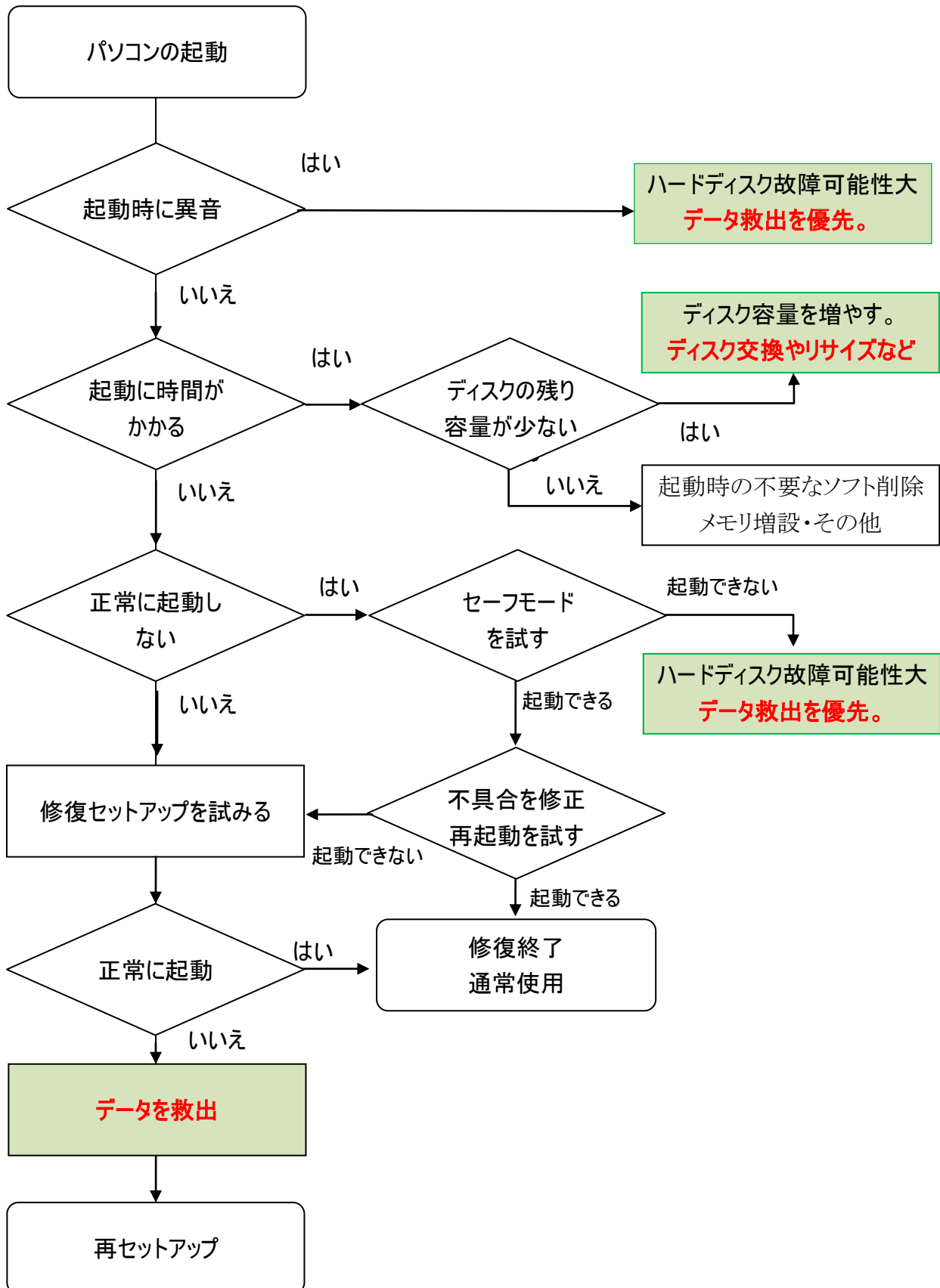


Windows の救済について

Windows XP,VISTA,7 を搭載したパソコンで動きが遅い・なかなか起動できないとか起動時に異音があるなど不具合があると思われるパソコンの救済策について紹介します。



データ救出について

注意:ハードディスクから異音(カリカリ、ガリガリ、キキキーなど)が発生している場合

- 異音が発生するハードディスクからの起動は避けた方が安全です。

理由は、起動するたびに症状が悪化し起動できなくなる可能性が高くなります。

ディスクの容量を増やす

基本ディスク(Windows がインストールされているハードディスク:基本はCドライブ)の空き容量が少なくなると、パソコンの動きが鈍くなる場合があります。



一概にどの位とは言えませんが、Cドライブの空き容量が10GB以下になると危険領域に入ったと思ったほうが良さそうです。

現在利用しているディスク容量を変更(増減)する方法

Windows 7 からは標準でユーティリティソフトが装備されましたが、それ以前のOS (Windows XP,VISTA)では、他のソフトメーカーから出されているソフトを購入するか、同等の機能を有するフリーソフトを利用するしかありませんでした。

ディスクの保存領域を変更するため、この作業を行う前にデータは、必ずバックアップを取ることをお勧めします。

ディスクの交換

ディスク容量を変更(増減)できない場合や行っても効果が薄いと考えられる場合はディスクの交換という方法があります。

但し、ディスクを交換するに当たり考慮すべき事柄として、

- ① 現行のパソコンを何年利用するのか? 買替時期では?
- ② Microsoft のサポート期間は?(Windows Update によるセキュリティや不具合対策など)
- ③ パソコンに搭載可能なハードディスクが販売されているのか?
- ④ ディスコピーツールが利用できる環境は? Yes or No
- ⑤ その他

通常ディスクを交換すると、Windows の再インストール・ソフトの再インストールおよび環境の再設定など丸一日を費やしても完了できない場合も存在します。

そうした問題を改善するのにディスコピーツールがあり、これもディスク容量の変更と同じく、他のソフトメーカーから出されているソフトを購入するか、同等の機能を有するフリーソフトを利用するしかありません。

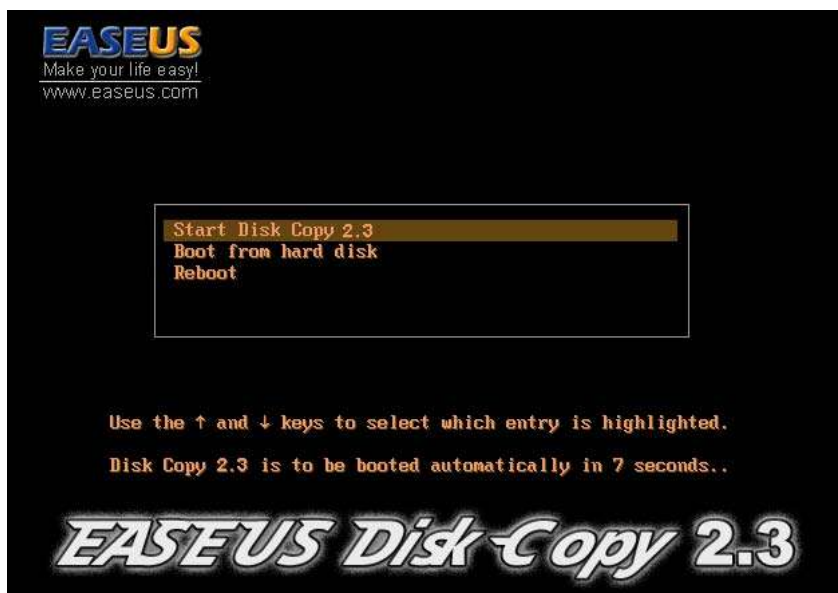
EASEUS Disk Copy(フリーソフト)の紹介

今回は、触りだけの紹介にしておきます。(実際の作業は容量にもよりますが数時間を要します。)

CD-ROMを挿入後に電源を入れます。

CD-ROMからの起動確認メッセージが表示されたら、何らかのキーを押します。(標準はスペースキー)

☞画面には、【 press any key to boot from CD or DVD.. 】と表示されています。



Start Disk Copy 2.3

(ディスクコピーの開始)

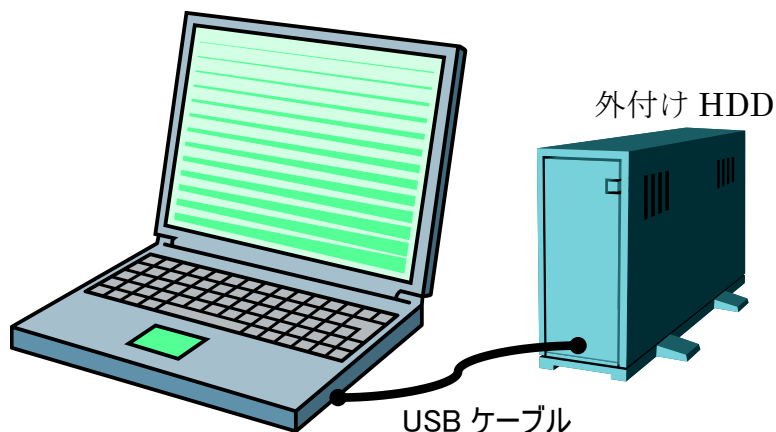
Boot From hard disk

(ハードディスクから起動)

Reboot

(再起動)

上記のメニューが表示されますので、目的の項目を上下矢印キー(↑か↓)で選択しEnterキーを押します。何もしなければ、7秒後にディスクコピーに自動的に移行します。



ディスクコピーツールを利用するには、USB外付けハードディスク(HDD)を用い、そのパソコンが外部USB装置をBIOSレベルで認識できることが必須条件*になります。

※約4年前位からのパソコンはBIOS上で外部USB装置の認識可能なパソコンが出荷されており、USB接続可能なフロッピーディスク、CD-ROM、DVD-ROM装置などが利用できるパソコンが該当します。

☞ディスクコピーツールのメリットとしては、リカバリーや再セットアップでは失ってしまう個々にインストールしたアプリケーションや個人的な環境がそのまま残すことができます。

☞但し、今回紹介したディスクコピーツールではパーティションの増減はできないため別途パーティションを変更するツールが必要になります。

補足：CD-ROM から起動できない場合

以前のパソコンは、CD-ROMを挿入するとCD-ROMからの起動が可能でしたが、最近のパソコンは少しでも起動を早くしようと、ハードディスクからの起動を最初に行うよう設定されている場合が多くなっています。

そうした場合、一時的にデバイス(装置)の起動順序を変更する必要があります。

起動順序を変更するには

パソコンメーカーの起動画面が出たら特定のキーを押します。


メーカー	BIOS起動	起動順序を一時的に変更
SONY	F2	F12
HP	ESC	ESC後にF9
NEC	F2	--
富士通	F2	F12
東芝	F2	--
emachines (Gateway)	F2	ALT+F10 or F12
Lenovo (IBM)	F1	--

※上記情報は販売年度及び機種によって異なる場合があります、詳しくは当該機種の取扱説明書を参照してください。

キーは、電源ボタンを押して数秒後にメーカー毎の起動画面(ロゴ)が出てから、数回特定のキーを押すことにより、BIOS セットアップ画面や起動順序の設定画面に入れます。

BIOSセットアップ画面が表示されたら

1. Startup 若しくは Boot と表示された項目を選びます。
2. 起動順序が表示されています。
3. CD-ROM やUSB CD-ROM の起動順位をHDDより先に起動するよう設定します。
4. 設定が終わったら、設定を保存【Save & Exit】してBIOSセットアップを終了します。

 電源を入れる前に CD-ROM を挿入するのが難しい場合は、電源を入れて起動画面が出たら特定のキー (F2・F11・F12 や Pause) を押してメニューが表示されている時に、CD-ROM を入れる方法もあります。

上記方法で CD-ROM を挿入した場合は、ESC キーを押すこと解除できます。

Windows PE を使ってデータ救出を試みる

従来は、パソコン本体からハードディスクを取り出して他のパソコンに接続して取り出す方法が主流でしたが、最近では Windows PE (Windows Preinstallation Environment 訳: ウィンドウズプリインストール環境) という通常の Windows から機能を省き CD/DVD やネットワークなどから起動できるコンパクトな Windows システムを利用することが多くなっています。

※Windows PE には Ver2.0 (VISTA)、Ver2.1 (VISTA SP1, SERVER2008) と Ver3.0 (7) の3種類があり、Microsoft のサイトからダウンロードが可能です。

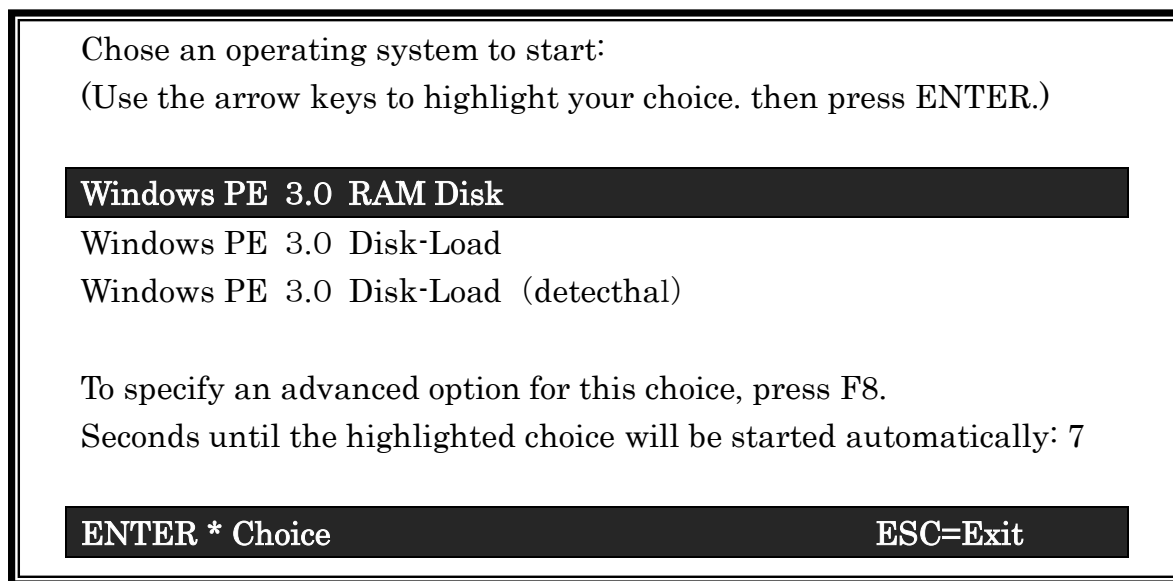
※Windows PE は連続使用が72時間と限られています。

Windows PE を起動してみる。

CD-ROM を挿入後に電源を入れます。

CD-ROM からの起動確認メッセージが表示されたら、何らかのキーを押します。(標準はスペースキー)

☞画面には、【 press any key to boot from CD or DVD.. 】と表示されています。



上手のメッセージが表示されます。

反転している【Windows PE 3.0 RAM Disk】を実行しますので、そのまま ENTER キーを押してください。

☞何もしなくても7秒後に反転表示されている項目が実行されます。

少し時間が(約2~3分程度)かかりますが、Windows PE が起動します。

注意：今から行う操作は、不具合のあったパソコンでの修復作業を目的に行うもので、正常な状態のパソコンで誤った操作すると不具合を発生させる場合があります。くれぐれも注意してください。

下図の様なメニュー画面が表示されます。




危険  部は触らないように

操作には、
くれぐれも注意してください。

主なアイコン説明



メモ帳を起動します。

必要な情報の入手や 

Firefox:IE と同じくインターネットの Web ページを閲覧したり、共有フォルダーなどのサービスが利用できます。



本ソフト Luncher PE—Shell の説明が記載されています。



Restart WinPE

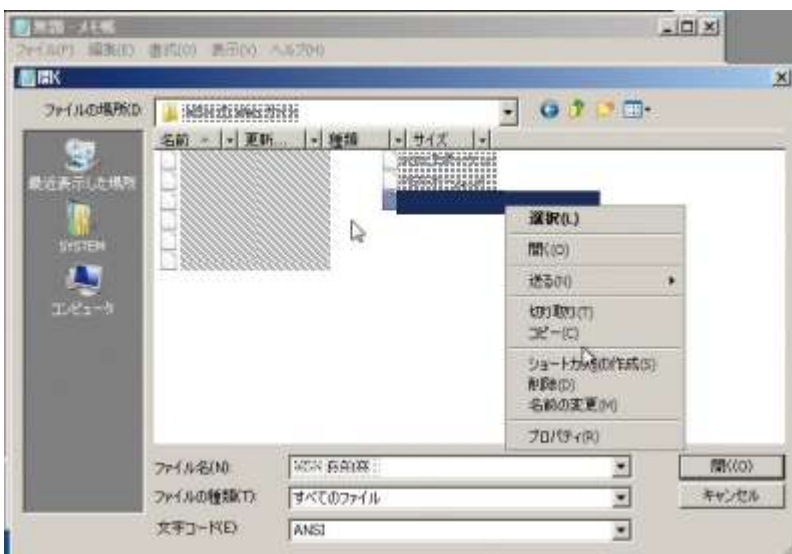
Win PE を再起動します。



Shutdown WinPE

Win PE を終了します。

今回は、Notepad(メモ帳)を操作してみましょう



左図はメモ帳を2つ起動させ、メモ帳1(アクティブ状態)からメモ帳2(後面)で開いているフォルダーに必要なファイルをコピーする方法です。

参考:

複数のコピーを行いたい場合には Command Prompt で Xcopy という命令を実行します。

最後に

ウィンドウズの救済としてツールを利用してデータの救出やコピーなどを利用する方法を紹介しましたが、転ばぬ先の杖とは良く言ったもので、日頃のバックアップやメンテナンスを行うことが重要だと思います。

ダウンロード先紹介

ディスクコピーツール [Easeus Disk Copy](#)

パーティションマネージャー [Easeus Partition Manager](#)

Windows PE [Windows® 7用の自動インストールキット \(AIK\)](#)

資料編 [Windows PE 3.0 の概要](#)

[EASEUS Disk Copy を試してみる](#)

おつかれさまです。